

# 行政自治会だより

第18号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 湯本 豊

## 新年のごあいさつ



古河市行政自治会  
会長 湯本 豊

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、古河市出身の山室光史選手が、リオオリンピック体操男子団体に金メダルを獲得するなど明るい話題もありましたが、熊本地震や、台風・大雨などの大規模自然災害がさまざまな地域に甚大な被害をもたらした年でもありました。被災された皆様には心からお見舞い申

上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、近年増加傾向にある災害に立ち向かっていくためには、地域における自主防災を担う自治会・行政区の皆様の日頃の地域活動が重要です。

行政自治会では、さまざまなイベントの開催により世代間交流を図り、交通安全・防犯活動及び自主防災会の活動などを通して自治会・行政区の絆づくりに尽力してまいります。

皆様には、このような趣旨にご理解いただき、地域の活動に積極的にご参加いただきますようご協力をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

## 古河市地域防災訓練が行われました

去る10月23日(日)古河市立総和南中学校にて、古河市地域防災訓練が行われました。ここ2年ほどは雨天により中止となりましたが、今年は好天に恵まれ無事開催されました。

参加団体は総和南中学校学区内の行政区のほか、総和地区の各行政区の方々など、総勢約450名の参加で執り行われました。

訓練は、茨城県南部を震源とする震度6強の大地震が発生したとの想定で、校庭にて避難誘導訓練、初期消火訓練、簡易担架の組み立てと搬送訓練、土のう作成・積土のう訓練等に真剣に取り組んでいました。はしご車による救助訓練にも地域住民代表の方が意を決して参加し、無事地上にたどり着きました。

その他、ヘリコプターによる逃げ遅れた人の救出救助訓練、地元消防分団による模擬家屋の消火訓練など、臨場感あふれる訓練の様子を見ることができました。

その後、体育館に移動し、NPO法人茨城県防災士ネットワークの講師による講義がありました。避難訓練の意義と自助、共助、公助の役割と重要性についての講話を聞き心新たにしました。

最後に自衛隊の炊き出し訓練によるカレーに舌鼓を打ち、避難袋の配布を受けて無事終了しました。

大掛かりな防災訓練でしたが、まとまりのある行動がとれ、有意義な一日となりました。

(広報委員 岩元俊二)



ヘリコプターによる救出救助訓練です。

消火器の使用方法を訓練しました。



土のう作りと積み方を訓練しました。





小諸市職員による説明

去年の10月28日から29日にかけて、平成28年度行政自治会の視察研修が実施され、参加者は114名、研修場所は長野県小諸市でした。

小諸市は長野県東部に位置し、北に浅間山、南西部に千曲川が流れ、たいへん自然が豊かな所です。市内は標高600～2,000mと高地に位置しています。気候は年間を通じて雨の日が少なく、長野県は雪が多いイメージがありますが、意外なことに雪の降る日、量ともに少ないそうです。

市の担当職員の春原氏は大変お話が上手な方で、時にユーモアを交えながら、小諸市がどんな地域であり、また市をあげてどんな事に取り組んでいるかなどを説明してくださいました。

例えば、市内が高地に位置しているという地形を活かしてスポーツチームによる高地トレーニングの誘致をしています。また、少ない降水量と高い日照率のため、ぶどうの栽培が盛んで、国から千曲川ワインバレー特区の認定を受けています。そして一時期、島崎藤村や高浜虚子が住んで

いた所以から、文学賞の制定や俳句大会などを行っています。

今回の研修テーマは「自治組織加入のあり方について考える」でした。小諸市の人口は約43,000人で、自治組織を簡単に説明しますと、自治会数68、地区数10地区（小学校区は6校区）、自治会加入率91.8%、区長の任期は1年と2年が半々だということです。

小諸市では平成26年2月に大雪災害がありました。家への出入りも困難だったそうで、このような災害では、「自助」、「共助」、「公助」が届かない人々にとって、頼りは「互助」だけだそうです。

春原氏はその時の経験を通して「いざというときの自治会の重要性」を実感したそうです。小諸市の条例には、「小諸市に住む人は、区に加入しなければならない」という条文があるそうです。小諸市やその自治会のもつ悩みもまた古河市とあまり変わらないようです。

例を挙げると、「住民の自治会への加入率の低下」「役員のなり手不足」「イベントへの低い参加率」などです。

最後に研修以外の面でも、車窓からの雄大な自然の景色や、歴史を感じさせる真田宝物館の見学など、私にとって心に残るものになりました。

また、多くの自治会長、行政区長の皆さんと交流することもでき、たいへん有意義でした。

今回の視察研修で得たことを、行政区長としての今後の活動に反映していこうと思っています。

(広報委員 二宮誠)



皆さん熱心に聞き入っていました。

私たちの第6地区は、古河第6小学校区に属する自治会で組織されております。

地区に属する自治会は、雷電二丁目、三杉町、緑町、雷前、平和台、常盤台、静町、ルネ古河若葉、桃ヶ里、もみじヶ丘、新平和町およびヴィールエコステージ古河の12自治会です。

地区の総世帯数は、約3,700世帯で自治会ごとの世帯数で見れば、大きなところで約750世帯、小さなところで約70世帯となっており、昭和の時代からの伝統を有する自治会や、比較的新しく建築された住宅団地やマンションを構成単位として創設されたところなど、さまざまな特徴を持つ自治会の集まりです。

それらの自治会では、地域住民の連帯意識を高めるために、「お花見会」「夏祭り」「文化祭」「餅つき大会」など、色々な行事が活発に開催されており、加えて古河市が主催する市民運動会や各種スポーツ大会にも参加し、勝敗は二の次として大いに楽しんでおります。

当地区には、江戸時代寛永10年（約380年前）古河藩主であった土井利勝公が築城の際、城の鬼門のところに祀った「雷電神社」があります。

この「雷電神社」のお祭として、雷電3町内（雷前、雷電一丁目、雷電二丁目）共同で春、秋の大祭、節分祭、ほおづき市、盆踊りなどの行事が執り行われています。

また、三杉町には富士山信仰で有名な「浅間神社」が地区の鎮守として祀られており、春、秋の大祭などが執り行われています。

さらには老人会、婦人会、子供会（これらは自治会ごとに、独自の名称を持っているところもあります。）などが組織され、「カラオケ大会」「旅



和気あいあいと第6地区内を歩きました。  
(健康ウォーキング大会)

行会」「お雛子会」など、さまざまな行事が行なわれております。

しかし、屋外での集会や催し物などに利用できるような公園などがないところは、地区内の空き地や敷地の一部を地主様のご厚意により一時的に借用し、何とか行事を行っている自治会もあります。将来的には、行政の応援も得て、そのための用地を是非とも確保したいものです。

一方、3年前に発足した第6地区コミュニティを通して「防災訓練」、「健康ウォーキング大会」を開催し、また、通学時の安全を守るため「学童みまもりたい」を組織し、防犯活動も行なっています。

さらに、それらの活動の発信・啓発と、コミュニティ誌発行も毎年継続的に実施しています。

これからも、より一層住民相互の交流・親睦を深めつつ、安全・安心なまちづくりに役立つような行事を計画し、進めて行こうと考えております。

(第6地区 地区長 浦井章)

## 第6地区 区域



AEDを用いた心肺蘇生法を学びました。  
(防災訓練)

## 市内歴史散歩（第16回）～上辺見地域と今はなき軍需工場の恩恵～



当時の面影を残す給水塔（陸上自衛隊古河駐屯地）

国道4号線大堤交差点より国道354号線を東へ、思案橋を渡りすぐに左に折れると、左側に陸上自衛隊古河駐屯地があります。

その敷地内に高くそびえる給水塔が見えます。

これが昭和18年7月、この地に軍需工場として進出した旧三菱重工業(株)茨城機器製作所の遺構であり、当時の面影を今に伝えています。

工場敷地としては、南は現在の国道354号線の一部に接し、北は現在の県道古河総和線に至る約85.9ヘクタールに及び、ピーク時には東京・川崎からの移住者を含め、約2,700名の従業員が働いていました。

このため、上辺見地域は、その影響を大きく受け、生活・文化の面で急激に都市化が進み、これが今日の発展の礎を築いたのです。

国策で進出した工場も、終戦により大きく平和産業へと転換し、昭和21年5月から主として船舶用ディーゼルエンジンの開発・製造に努め再スタートしました。

その後、工場は幾多の変遷を経て、昭和27年3月、企業内の合理化により、上辺見地区からその姿を消しました。整然としていた工場群等は解体され、総理府（当時）に譲渡され、その後、昭和29年に南古河・北古河駐屯地（現陸上自衛隊古河駐屯地）として生まれ変わりました。

終戦直後の混乱期には、工場東側の工場未着手地の畑、約21.8ヘクタールについて、会社より土地提供者（農家）が借り受け、従業員の食糧難を支えました。

その土地は、昭和22年の農地改革により期せ

ずして、土地提供者のものになりました。

その後、その区域は、昭和59年に完了した土地区画整理事業により宅地化が進み、現在の「上辺見南町」として生まれ変わりました。

また、工場北側の工場未着手地については、昭和25年勝鹿中学校の開校を見たが、昭和37年4月の総和中学校開校により、短い運命を全うしました。

その敷地を含めた区域は、昭和43年に完了した土地区画整理事業により宅地化され、その換地の中でユースセンター総和・上辺見保育所・市営住宅等が整備され、現在の「中辺見」の誕生を見たのです。

なお、ユースセンター総和は、防衛庁（当時）において、かつての三菱重工業(株)が地域住民との融和を図るため、運動会・花見・茸狩り等を催していたという事実を評価され、コミュニティ施策として補助金を交付し、平成3年旧総和町が建築開館したものです。

（上辺見行政区 前田順一）

### 旧三菱重工業(株)茨城機器製作所跡地



### 編集後記

10月23日、古河市地域防災訓練が総和南中学校区で開催されました。当日は、保育園児からお年寄りまでの約450名が訓練に参加し、真剣に取り組みました。

最近では、地震・自然災害等想定外のことが多く発生しています。今年に入っても熊本地震、鳥取県中部地震、東日本大震災の余震等の地震災害に加え、台風の通過に伴う大雨水害等が発生しています。その度に「今まで経験したことがない」との声を耳にします。

私達は、訓練もさることながら、常日頃から防災についての意識を持つことが必要な事と痛感しております。  
（広報委員長 梅津信男）

### 行政自治会広報委員会

委員長  
梅津信男

委員  
横山泰男 蜂須誠司 長濱弘道  
熊木津佐雄 森福次 松田義章  
岩元俊二 二宮誠 黒木ヒサ子